

B 【救急車の搬送受入れが良好である地域】

WS③-2 救急車受入れ以外の地域の課題

15:30 ~



平成21年度救急統計活用検討会報告書

1. 地域の救急医療体制についての課題は何ですか、優先順位は？
(現場の医療者、住民、行政のそれぞれの目線から)
(グループで20分+発表10分)

<想定> B地域の状況

- ①この地域は、人口100万人、2つの消防本部が所管。
- ②緊急度・重症度が高いと判断すれば、直近の救命センター(3カ所)から順に連絡。
- ③各救命センターは、年間5-6千台の救急車搬入に応需。
- ④救命センター間で、疾患ごとで役割分担はしていない。

B地域C救命センター2014年度救急車搬入患者の状況から

- 2,321人/5,255人(44.2%)が後期高齢者(75歳以上)
- .. 1,071人/2,321人(46.1%)が救急外来より帰宅
- .. 279人/2,321人(12.0%)が入所施設より通報

2. 解説(MCの役割を見直す)
(5分)

○救急車の受入れが良好といっても..

<傷病者の状況>

- ・重症傷病者が、適切な時間内に、適切な医療機関に搬送されているか？
- ・高齢者への対応は、現状のままでよいのか？
- ・精神科救急との連携は、行われているか？

<医療機関の状況>

- ・重症傷病者が、適切な時間内に、適切な医療機関に搬送されているか？
- ・平日日中、休日夜間では、対応に差があるのでは？
- ・傷病者ごとの転帰の評価は行っていないのか？

○MCの役割には、変化が求められることになる。

3. MCの役割の変化に伴い、
地域で解決すべき課題は何ですか？
(グループで5分+発表5分)

○救急救命士の処置拡大に伴い、MCのコア業務
(=指示、検証、研修体制)にも変化が求められてきた。

4. MCのコア業務の課題は何ですか？
(グループで5分+発表5分)

5. 解説 (MCコア業務の見直し) (5分)

- 当初のMC
心肺停止傷病者に対する活動の質を担保するために
1)指示、2)検証、3)研修体制を整備すること..
- 処置拡大(挿管・薬剤)等の実施
求められる重症外傷、処置拡大に伴うプロトコルの策定..
- 消防法改正
MC協議会の法的根拠が確立..
傷病者の搬送先医療機関の調整に関与..
更なる処置拡大(ブドウ糖・心肺停止前の輸液)..

○MC(コア業務)の役割には、変化が求められることになる。

6. MC(コア業務)の役割の変化に伴い、
地域で解決すべき課題は何ですか？
(グループで5分+発表5分)

7. 解説（応需率改善への取り組み） （5分）

- 需要側（傷病者）の課題・・・需要の抑制策の例
 - ・救急車、救急外来の適正利用の推進
 - 電話相談（#7119、#8000、アプリ）の充実、老健施設・在宅患者の救急搬送の減少への取り組み（地域包括ケア）、頻回利用者対策、時間外選定療養費
- 供給側（医療機関）の課題・・・受入れ容量の増大策の例
 - 見える化の推進（救急搬送の受入れ状況の公表・共有）、補助金の適正化（受入れ実績を反映）、出口問題への取り組み、表彰制度
- 需要側と供給側のミスマッチの課題・・・改善策の例
 - 見える化の推進（救急搬送の受入れ状況の公表・共有）、救急搬送受入れの実施基準（消防法第35条）の適時修正、医療機関による消防OBの活用、消防・医療の双方向の評価（電話をかける側の評価）

まとめ

救急医療は、社会環境の変化に柔軟に対応することを求められる

MCについても、役割は変容せざるを得ない

救急活動の「質の担保」（＝コア業務）はMCの根幹